

トランストロン 危険運転を「見える化」 ジャパン21社と連携で

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、加藤祐三社長）は三十日から、ネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で使える運行支援サービスで、危険運転を「見える化」できる新機能を追加した。専用に取り付けた衝突防止補助装置と富士通のネットワーク、クラウドサービスを連携させることで、前方車両に近付き過ぎるなどの危険運転を常時監視。運行管理者はドライバーの運行状況をもとに正確に把握でき、事故防止につなげる。データ連携を始めたのは、ジャパン・トゥエンティワン（本社・東京、加藤充社長）が販売する後付け式の衝突防止補助装置「モービルアイ530」。ネットワーク型デジタルタコの「DTS・CIA」、ドライブレコーダー機能を搭載した「DTS・CIDA」シリーズで防

衝突警報情報 を日報に反映

三十日に始まった新サービスでは、ドライバーが危険運転の警報を受け



ると、ネットワークを経由して情報をクラウドサーバーに転送。「いつどこで」危険運転があったかを日報に表示する。ドラレコ二体型の「DTS・CIDA」シリーズでは、モービルアイの警報と同時に、カメラで映像を撮影。すぐ事務所に伝え、運行管理者は車両の動態とともに、危険運転をリアルタイムに確認できる。

援サービスやアフターフォロー体制を拡充。これと併せて、タイヤの空気圧検知器やアルコールチェックなど、他社製品との連携強化にも力を注いできた。

トランストロンは五年前にネットワーク型デジタルタコを発売以来、運行支援サービスも進める「DTS・CIDA」サービス利用料はDTS・CIDAの場合、運行支援、動態管理、Q&Aなどを含め、月額二千六百六十円（税抜き）。モービルアイは十五万五千円（同）。取り付け費用は別途掛かる。

問い合わせ先はトランストロン情報機器営業部、電話045(476)4640。

（小林 孝博）